

農業振興条例の制定を



山本 優人 議員

質問 町では高温多雨による農産物の被害状況を把握しているのか。その対策は。

高温多雨に適した農産物の選定や管理方法など、今後の営農指導の方針は。生産性の向上や農地の維持拡大と流動化のため、土地改良が必要であり、農業及び農村を町民の貴重財産として次代に引き継ぐとともに、その進むべき道、方針を持続的に進める農業振興条例を制定し、基幹産業としての位置づけをするべきではないか。

答弁(町長) 米の一等

米比率は昨年よりも下回り、転作作物の大豆、そば、ネギなどの収穫作業は大幅に遅れ、収量・品質とも平年を大幅に下回るようだ。

大豆、そばについては、排水対策に努め収穫を行うよう呼びかけ、救済措置は今のところ考えていない。

今後の営農指導については、県・JAと連携して技術対策の情報提供や栽培技術講習会・現地指導などに努める。

当町においては、土地改良事業の推進は重要である。そのためには、地元農家全員の機運の醸成、意思統一が何よりも大切で、「町農業再生協議会」で策定した農業ビジョンや基本構想が同じような機能を果たすものであると認識をしているので、今のところ条例の制定は考えていない。

再質問 農政局では雪の中の大豆を収穫するよ

タブレット端末を導入して事務の効率を

質問 会議に使う資料

平成27年度から配布される米の新品種「つぶぞろい」の指導をどこがやるのか。

答弁(町長) 収穫から出荷までやらないと交付金の対象にならないが、JAでは国に対し交付金を返還しないよう、要請書を出している。

米の新品種については、県、JA、町が連携しながら指導していく。



大きさは週刊誌ほどで場所を取らず通信機能を使えばテレビ電話もできる

では、資料づくりのため多くの時間と印刷に費用を掛けているが、タブレット端末を導入することで、コストの削減とペーパーレス化が図られるが、事務の効率化のため導入の考えはないか。

答弁(町長) 機器導入のメリットは判るが、初期投資が課題である。

現在進めている県町村会の電子計算共同化の中にも調査研究したい。先進事例を参考に事務の効率化や会議のペーパーレス化について検討していく。



大豆の収穫作業 (12/17撮影)

町営診療所の医師確保の進捗状況は



皆川 鉄也 議員

質問 定年退職を迎える町営診療所の医師の後継者確保について、これまで講じられた顛末と現在の進捗状況は。

答弁(町長) 現在、医師退職後については未だ確保できていないのが現状であるが、随時、庁内対策会議を開催しており、地元医師会や県医師確保対策室に協力依頼、町のホームページ及び県ドクターバンクに登録して医師募集を町内外に発信、近隣病院等に勤務する非常勤医師等への打



もしものとき、近隣に病院がないと困る...

再質問 空白の期間が出ないように、年度末までに医師確保の段階に至れるのか。

できない場合の町の対応は。

答弁(町長) 現時点では、今ある有力な情報で医師確保に全力を尽くす。

新年度予算の方針は

質問 衆議院の解散、師走選挙により、国の方針もない中での作業だと思えるが、町民ニーズにどのように対応するべく新年度予算を編成するのか。

答弁(町長) 選挙後の新内閣の下での国の新年度予算編成では来年にずれ込む可能性が高い。各省庁では「指示待ち」の状態であり、今後の動向には細心の注意を要すると考える。

当町の財政状況は平成23年度決算でも健全化判断比率等の指標は健全範囲内だが、選挙後の国の施策や財源の確保が不透明であることから、当初予算編成では、事務事業の徹底的見直し、創意工夫による効率的・効果的な事業の推進を念頭に置



地場産業の確立が大切だ

き、町民の意見・要望等にはきめ細やかな対応をし、地場産業の振興、雇用の確保・創出等を重点的に支援策を展開し、町の均衡的発展と町民の福祉向上を推進する。

再質問 町の基盤である地場産業の確立が一番大事ではないのか。

答弁(町長) 当町が元気になるには、産業振興と雇用の確保が新年度の大課題と認識している。